

一三、雙松館

(二本松驛の北凡二十町)

安達郡二本松町霞ヶ城趾にあり山田脩の經營に係る機械製糸工場なり一ヶ年の製糸高二千七百貫以上に達し海外に輸出せり本館は明治十九年の始業に係り二本松製糸會社の後を繼承したるものにして當時民間に於ける機械製糸の嚆矢と爲す



二四、安達ヶ原

(二本松驛の東方半里)

安達郡二本松の東方逢隈の河畔大平村に在り所謂安達ヶ原と稱するは是れなりと云ふ相傳ふ昔者良弓駿馬を出し朝貢に充てたりと又黒塚と稱するものあり平兼盛の詠を以て其名世に著はる

拾遺集

平兼盛

陸奥の安達が原の黒塚に

鬼こもれりと聞くは誠か



一五、福島縣種蓄場

(本宮驛の西凡三里)

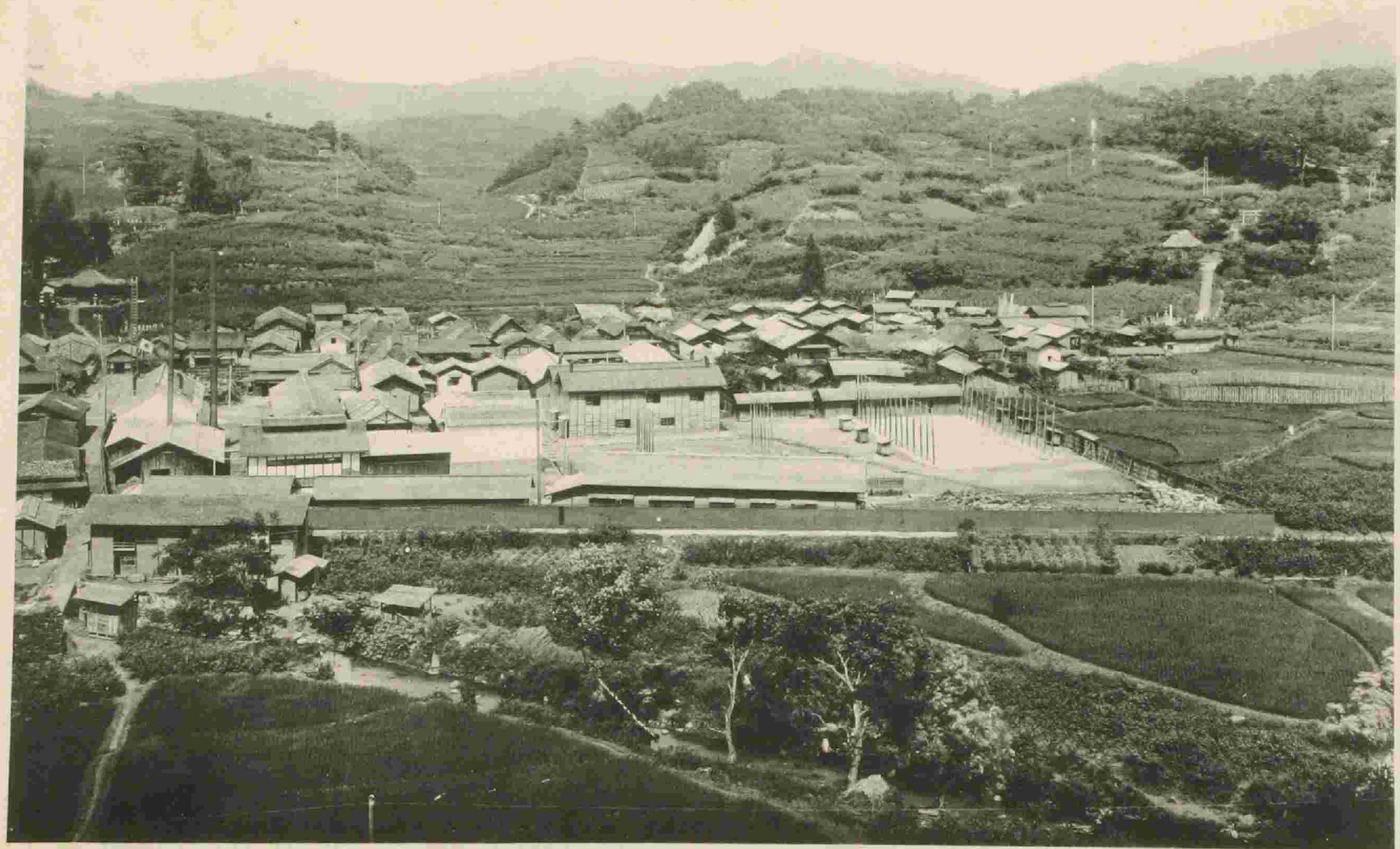
安達郡高川村大字石蒔に在り明治三十五年の設立にして種馬の育成及種付、飼料の試験、講習、預託育成等馬格の改良發達に資する所あり



二六、川俣絹布整練會社

(松川驛の東凡三里)

伊達郡川俣町に在り本縣羽二重の輸出高年に五百萬圓其過半は川俣町に集中し該社に於て整練す川俣羽二重の聲價を海外に博したるもの與て力あり



二七、福嶋市

戸數五千五百八十二、人口三萬二千五百有餘縣廳、郡役所、聯隊區司令部、地方裁判所、區裁判所、監獄、稅務署、警察署、縣立師範學校、同中學校、同高等女學校、同蠶業學校、同工業試驗場、測候所（蠶業學校、工業試驗場、測候所は渡利村に屬す）、赤十字社福嶋支部、帝國鐵道廳營業事務所、郵便局等あり此地板倉氏の舊城下にして舊杉妻と稱せしか天正中蒲生氏郷の領たりしとき其將木村重次大森城より徙り改めて福嶋と稱す明治四十年四月市制を施行せられ蠶糸集散地として商業頗る盛なり



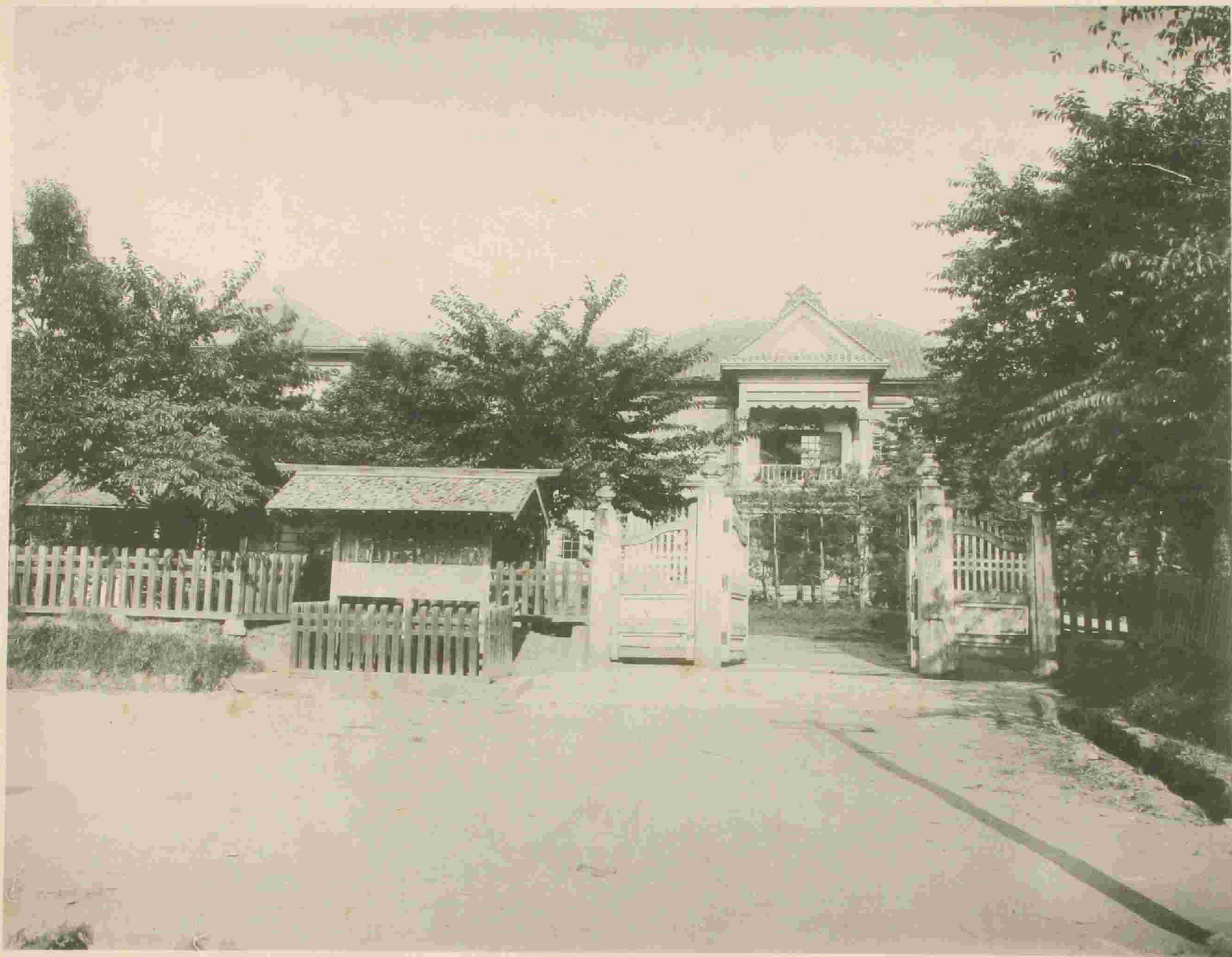
二八、福島縣廳

福島城址の一部に在り一水其下を流る逢隈川と云ふ
廳舎川流に臨み辨天山に相對し頗る風光に富む建築
亦宏壯にして庭園花木を栽る畏くも 東宮殿下御旅
館の光榮を荷ひ恩徳四方に洽ねし廳下老幼貴賤親し
く玉駕に接し恐懼措く所を知らず



二九、福嶋縣師範學校

福島市舟場町に在り明治七年の設立にして生徒定員は本科第一部男三百二十人女百二十人本科第二部男四十人豫備科男四十人女三十人を收容し又正教員講習科及附設實業補習學校を置く



三〇、逢隈の川畔

福島市の東南に沿ひて北流し深碧底なきか如し川流
辨天山の松翠と相對して一幅の畫圖を爲す川は舟楫
の便あり又水練に適す下流に沿ひて橋あり松齡橋と
云ふ盛夏の頃橋畔に逍遙すれば涼風吹來りて袂を拂
ふ所爽快亦禁する能はず

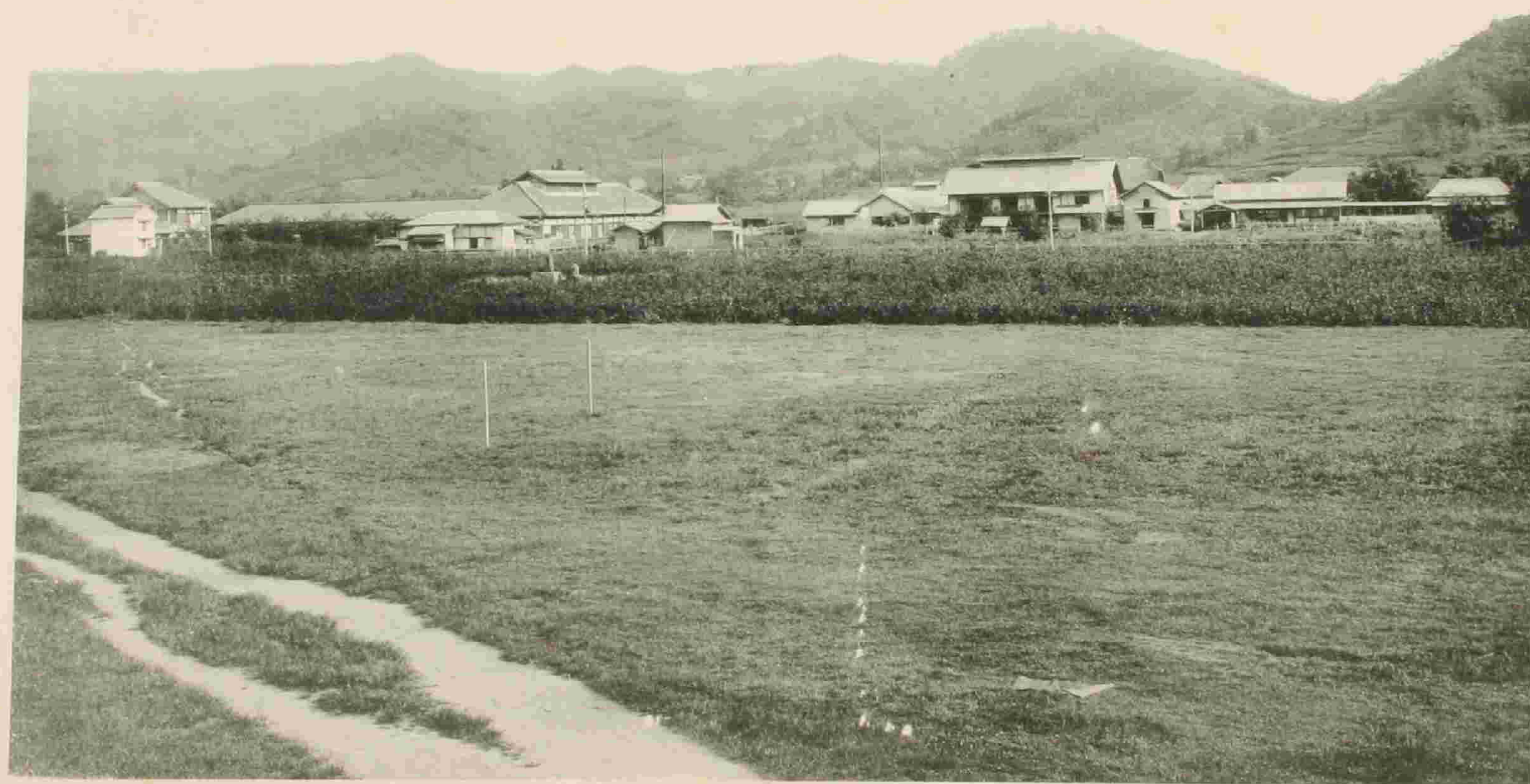


三一、福島縣立蠶業學校
福島縣立工業試驗場

(福島縣の東凡十五町)

信夫郡渡利村に在り明治二十九年の設立にして甲種の程度に依り製種、飼育、製糸の方法を授く生徒定員本科九十人別科三十人とす修業年限本科は三年四ヶ月別科は六ヶ月とす明治四十年五月校舎の過半烏有に歸し目下改築中に係れり

學校に隣れるは福島縣立工業試驗場にして明治三十五年の設立に係り織物及製糸に關する試験講話技術者養成等を目的とし模範工場の作業力機械の試験羽二重工女の養成に従事し其成績良好なり



三二、合資會社共同生糸荷造所

福島市大町に在り明治二十二年六月福島蠶糸業者の共同設立に係り當地に聚集する生糸の品質を判別して之れに商標を附し以て横濱市場に輸出す明治四十年に於ける取扱數は實に一萬五千梱の多きに達せりと云ふ



三三、福島縣立福島高等女學校

福島市大字曾根田に在り明治三十六年の設立にして
生徒定員四百人を有す



三四、信 夫 公 園

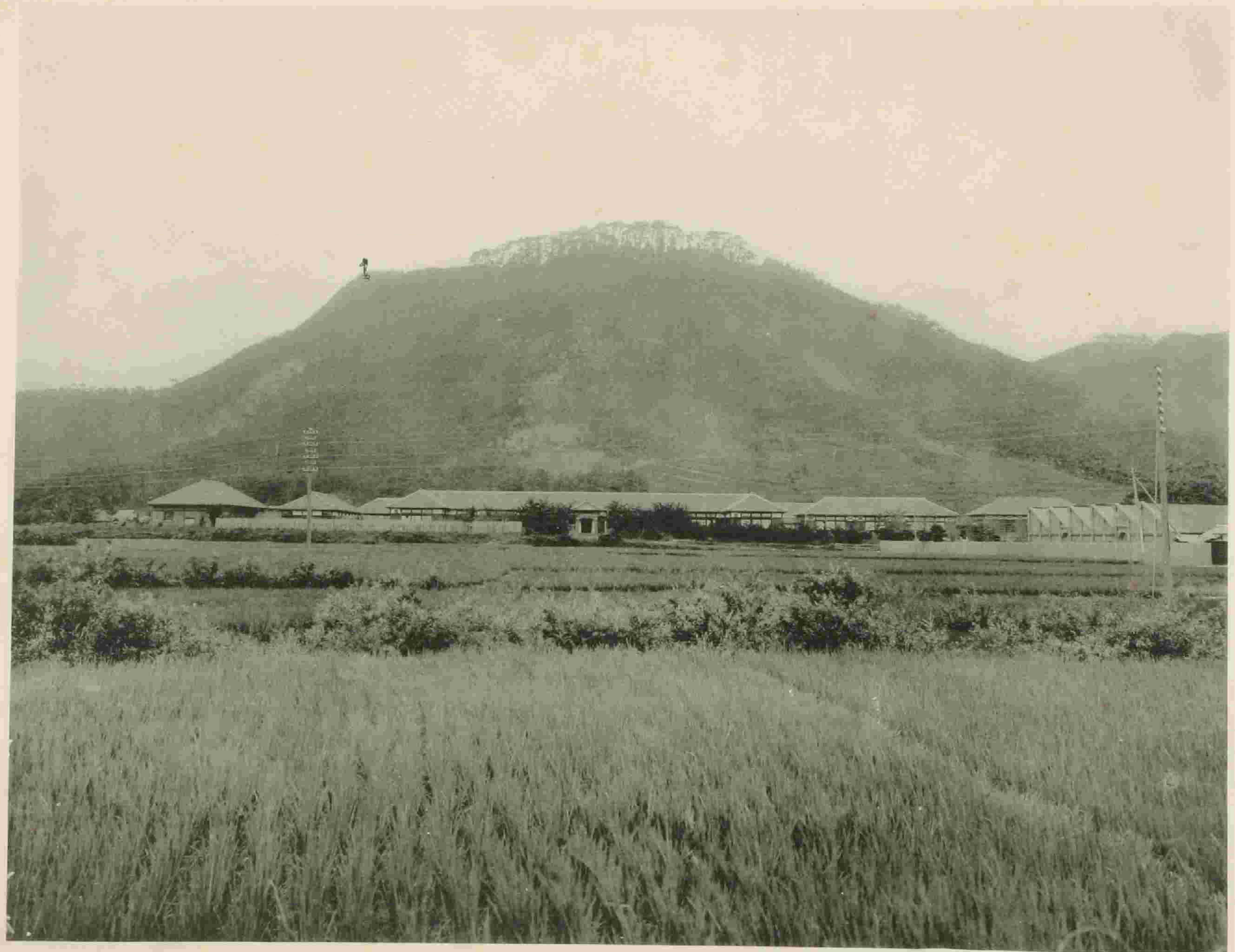
〔福島縣の北凡十五町〕

福島市大字御山信夫山に在り一望すれば東南蓬隈の
流迂曲して一大銀河を爲し遙に辨天山と相對して西
に吾妻山の峻峯を眺め萬山環立の間信夫の平原一眸
の裡にあり實に眺望佳絶の所とす園に隣りて祠あり
官祭信夫山招魂社と云ふ明治十二年創建する所戊辰
の役事に死せる參謀世良砥徳、牧野茂敬以下四百十九
人は官祭を承け餘は皆私祭たり毎歲四月二十三日及
九月二十三日に祀典を擧ぐ



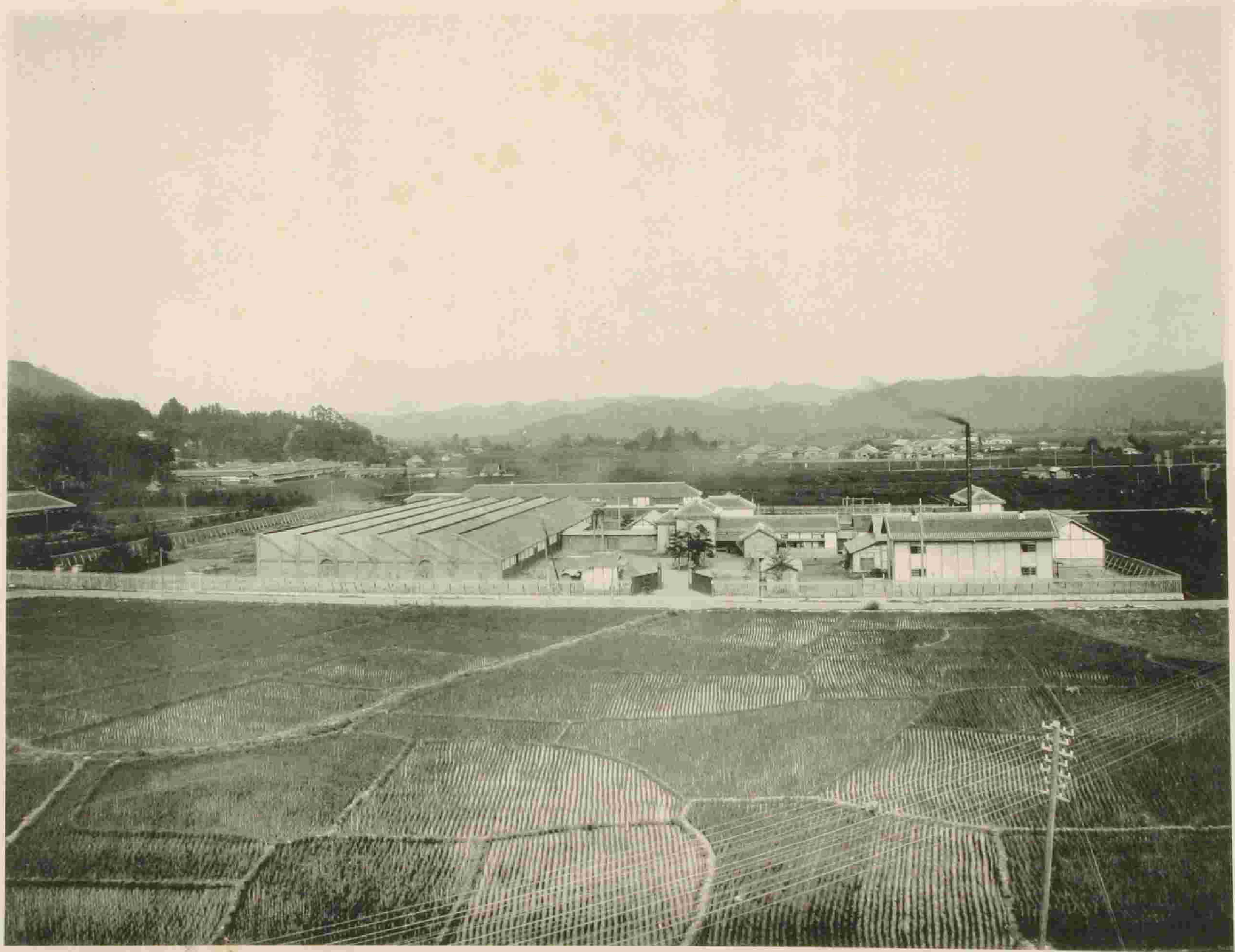
三五、福島縣立福島中學校（福島縣の北凡十四町）

福島市大字森合に在り明治三十一年の設立にして生徒定員六百人を有す背後に山あり山容溫藉秀色人口を怡はしむ信夫山と稱す高九十丈平野の中に孤立し三峰隆起し中を羽黒、右を熊野、左を羽山と稱す市の風致を添へ山亦眺望に適す



三六、福島羽二重株式會社（福島驛の北凡十三町）

福島市大字曾根田に在り明治四十年の設立にして輸
出羽二重の製織及精練を業とす



三七、信夫文字摺石

(福島縣の東北凡一里)

信夫郡岡山村大字山口文字摺観音堂の前に在り東西

一丈一尺六寸南北六尺九寸高六尺二寸又雲錦石、鏡石
の名あり左大臣源融公の詠を以て其名千古に著はる

陸奥の信夫もちすり誰ゆゑに

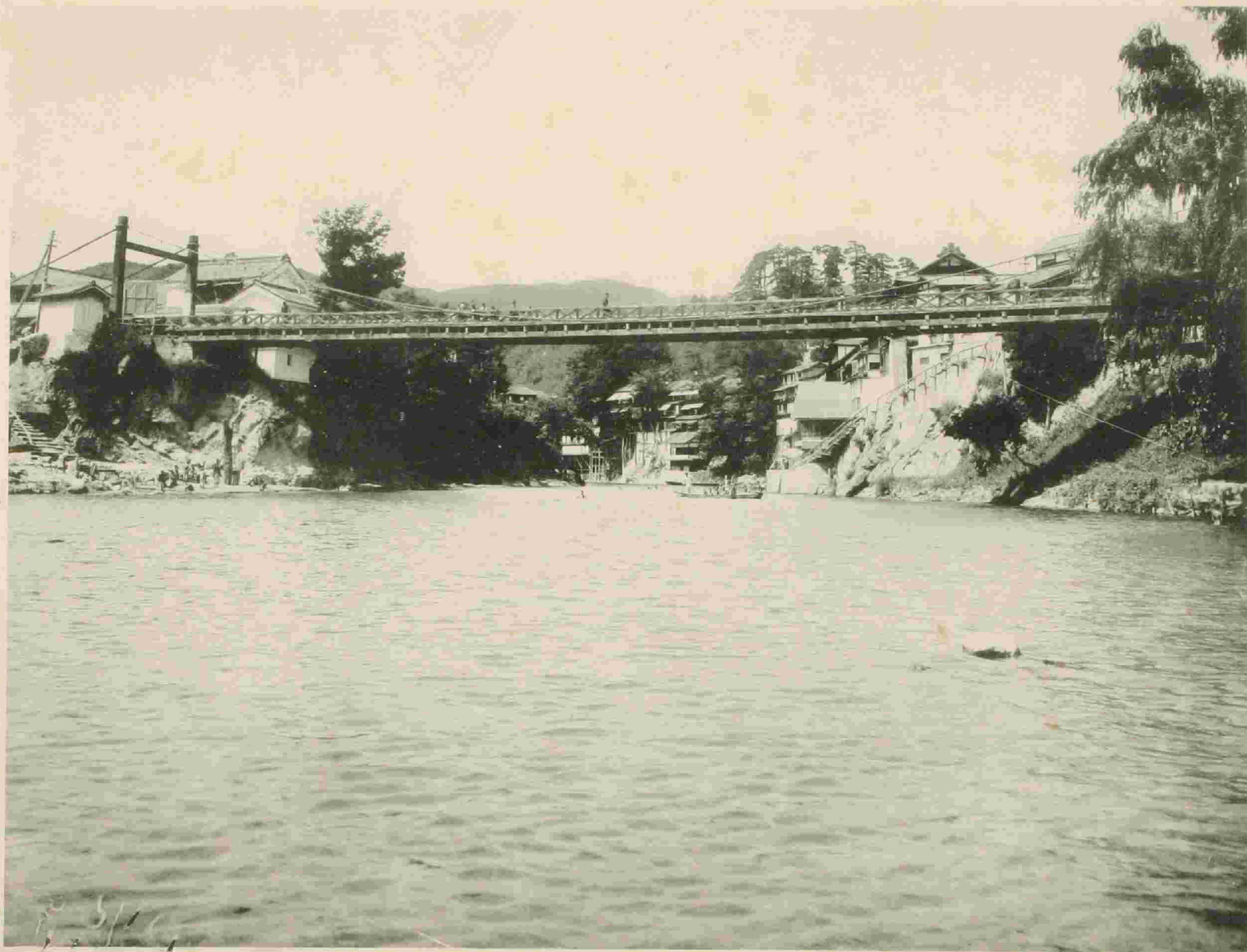
亂れそめにし我ならなくに



三八、飯坂、湯野温泉

（福島驛の西北凡二里半）

飯坂温泉は信夫郡飯坂町に在り泉は涌口數ヶ所に別る泉質無色透明にして鹽類を含む此地西北群山を繞らし摺上川東南を流る川は即ち信夫、伊達兩郡の界にして岸高く流清く橋あり十綱橋と云ふ橋東は則ち湯野温泉と云ふ兩岸樓閣崖に倚り水に臨み風光幽致あり



三九、桑園

本縣の養蠶及蠶種製造業は伊達郡を以て其の最と爲す一箇年の收繭高は實に五萬石餘に達すと云ふ圖は則ち同郡の桑園に於ける摘桑の光景なり



四〇、靈山

（桑折驛の東凡五里）

伊達、相馬二郡の境に在り高二百六十丈怪巖奇石屹然として空を摩するか如し絶巔墟あり國司館と稱す今僅かに斷礎を存す南北朝の際鎮守府大將軍北畠顯家義良親王を奉して東北を鎮護せし所なりと山を距る里餘靈山村大字大石に別格官幣社靈山神社あり源親房、源顯家、源顯信、源守親の四公を祀る蓋し北畠氏勤王の遺烈を感じて創建する所なりと云ふ

